2016年7月9日

長谷川友美

夜が「明るすぎる」日本

7月7日に放送されたＮＨＫ「クローズアップ現代」のテーマです。

たまたまテレビを流し見ていたらこの番組に行き当たりました。

なんでも日本人のおよそ7割が「天の川」を見ることができないという調査結果が発表されたそうです。

確かに私も相当田舎に住んでいると思っていますが、天の川は星なかま☆ひめじに入るまで見たことがありませんでしたから、都会の人は星すら見れないのかもしれません。

実際、石垣島の星空ツアーでインタビューされていた東京の人は「本とかで見ているのが本当に空にあって、すごく感動しました」と言っていました。気持ちはすごくわかります！

テレビで紹介された石垣島で星空ツアーをされている方は、石垣島が星空保護区に認定されることを目指しているそうです。

高さを抑えた街灯を設置したり、光が上空に漏れないように工夫したり。

ぜひとも日本全土でこの活動をしてほしいですね。街灯を上に照らすのは正直無駄とも思います。

夜本来の姿を大切にしようという取組みが広がってはいるそうで、6月に全国2万を超える施設で一斉にライトダウンが行われたそうですが、大阪ではキラキラしてないと大阪感がないと思うだとか、暗かったら何にも面白くないだとか、いう意見が見られました。

大阪感というなら、もっと別なＴＨＥ大阪！っていうものもあると思うし、いっそのこと新しい大阪感を作ったらいいのにと思います。

暗かったら面白くないというなら、明るかったら何でも楽しいの？と思います。

日本人が明るさを求めてきた背景には、戦後普及した蛍光灯の栄光が大きいといいます。

明るい夜＝豊かさ。という当時の人たちの気持ちはわかる気がします。

しかし、5年前の東日本大震災を機に人々の間でエネルギーの浪費を自粛する動きが高まり、今も東京の空は明るさを取り戻しつつあるものの、そのスピードは緩やかであるという観測データがあるそうです。

震災がきっかけというのはやや考えさせられますが、せっかくの機運を無駄にせずこれからもっと夜本来の姿を取り戻す活動が活発になればいいと思います。

願わくば、家に居ながらにして天の川が見え、枕草子にあるように「夏は夜」と詠える時が近い未来に来るといいなと心から思います。